

若手技術者発表会 YP 大賞 若手交流会 AJCE 夜会

AJCE 技術研修委員会 Young Professional 分科会

■若手技術者発表会 YP 大賞

日時：平成 24 年 8 月 29 日（水）14:30 ~ 18:00

会場：建設技術研究所 会議室

参加人数：41 名



■若手技術者交流会 AJCE 夜会

日時：平成 24 年 8 月 29 日（水）18:30 ~ 21:00

会場：ランコントレ・トント（人形町）

参加人数：43 名



（公社）日本コンサルティング・エンジニア協会（AJCE）の技術研修委員会若手技術者（Young Professional：YP）分科会では、若手コンサルティングエンジニア（CE）の育成や国内外のネットワーク作

り、学生向け啓蒙活動などを行っています。

この活動の一環として、会社や団体における若手発案かつ若手主体の活動を発表する場として、『若手技術者発表会 YP 大賞』を企画しました。また、YP 大賞終了後は恒例の若手技術者交流会『AJCE 夜会』を開催しました。いわゆるダブルで若手ネットワーク拡大企画です。

■若手技術者発表会 YP 大賞

発表会には以下の 8 社がエントリーしてくれました。各社それぞれ気合の入った盛りだくさんな発表で非常に素晴らしい発表会となりました。誌面の都合上、極々に簡単に報告します。

1. PTM ワーキンググループ：（株）森村設計

「9.11 震災後、自分達には何ができるか？」がきっかけ。様々な活動の中、特に、ビル屋上にリアルタイム電力モニターを設置し、エネルギー使用量を見える化し節電効果（夏季で-34%）を実数値で示した活動ははすばらしい。設備屋ならではの感覚。実行力が伺える活動である。既に会社に利益をもたらす活動となっているのもさらに良い。

2. 景観ゼミの取り組みについて：（株）建設技術研究所

「東京のまちや川を巡る活動」を実施して 3 年。多くの活動の中、特に隅田川にかかる橋について、いかに川を下りながら、先輩職員から技術者の視点で説明を受け、橋を下から仰ぎ見る。イメージするだけでワクワクした。是非参加したいイベントの一つである。東京の活動が大阪に拡大しているのも良い。

3. 若手社員が自主的に実施しているコミュニケーション研修の取り組みについて：（株）長大

「新人研修は人事部が行うもの」と高をくくっていた。それを若手自身が、自らの経験を新人に語る。すばらしい試みである。3 月の納品ラッシュの中での下ごしらえ。さぞ大変だろう。同じ立場として身にしみえる思いである。大変なことは百も承知で実践していると推察する。是非とも今後も継続していただきたい。

4. 国内部門の若手技術者向け海外研修事業：八千代エンジニアリング㈱

「海外プロジェクトへの若手派遣による経験値アップ」を目指す研修制度。若手も含めた海外進出は、今後の日本の CE 業界全体の大きな課題である。その意味でこの制度は重要である。しかし、こと本発表会においては「若手が発案かつ主体的な活動」という趣旨と異なるところが残念だった。

5. 平成 23 年度下水計画管路部・施設部若手勉強会：(株)水コン

「ON-JOB だけでは知り得る知識に限られる。技術士試験など、もっと多くを学びたい。」という若手の「もっともっと」という欲求・好奇心を形にして 2 年。自由度を重視して、先輩職員の講義形式ではなく、講師として自らが調べ、報告(発表) 質疑対応して鍛える形式が非常に良いと感じた。それに対して、先輩職員が経験的な視点から、内容を補足するような参加方法も素晴らしい。

6. CTII 社内勉強会：(株)建設技研インターナショナル

海外を主戦場とする会社の若手ならではの「海外での先輩社員の経験値(苦労談、失敗談など)を共有する場」として昨年開始。毎週金曜午後 1 時間半。テーマは、南米・アフガニスタンの文化など、海外業務に携わる上で必要な要素となっている。個人的には「JICA の素顔」を聴講してみたいと思った(どんな顔?)。また、今後海外へ展開する際の海外経験の共有化の一手法としても興味深い発表だった。

7. 社有地「おおとの森」における里山利用を介した人的交流・人材の形成：日本工営㈱

社有地「おおとの森」の活用方法を若手主体で検討。里山体験としてタケノコ狩り(2010～)、米作り(2011～、手植え→稲刈り→精米→実食)を実践中。他に、竹を実際に切り倒す作業など、その大変さから施設を維持管理する大変さを実体験でき、楽しみながら経験値を上げる一石二鳥な試みにうらやましさを感じた。個人的にも是非参加してみたい。惜しくも本発表会では入賞を逃したが、夜会アンケートではみごと 1 位!

8. 創発塾：スーパー開発コンサルタント養成講座：(株)オリエンタルコンサルタンツ

冒頭、会場にどデカイ声が響き渡った…。失礼笑ってしまった。発表会開始から早 3 時間半。最後か～と感じたその瞬間、「みなさん、起立! 隣の人とペアになって肩を叩いて～」の声。この時の体操の気持ち良さは

は忘れられない。さて、創発塾は、とにかく楽しく学ぶ、をモットーに発足、原則飲みニケーション付である。内容は「オリコンの挑戦」から「南アフリカの資源投資」、「弁護士講師による交渉術」など多岐に渡る。

「大根踊り」もインパクト大! 運動を伴う記憶は長期記憶となる。本当に素晴らしい。

以上の発表について、5 つの審査基準(活動の趣旨、自主性、継続性、効果、プレゼン能力)で AJCE 理事 3 名が厳粛な審査を行い、YP 大賞、YP 準大賞×2 の 3 社が選出されました。第 1 回大賞は、建設技術研究所が受賞しました。上述しましたとおり、魅力のあるプログラムで技術者の好奇心に訴える活動でした。おめでとうございます。



YP 大賞

『景観ゼミの取り組みについて』 (株)建設技術研究所



YP 準大賞

『創発塾 スーパー開発コンサルタント養成講座』
(株)オリエンタルコンサルタンツ



YP 準大賞

『平成 23 年度下水計画管路部・施設部若手勉強会』
(株)日水コン

■若手技術者交流会 AJCE 夜会

AJCE 夜会は今年で 3 回目。今年も AJCE 会員企業の 20 代～30 代の若手 40 名以上に参加いただきました。参加者の専門は、橋梁・道路・交通・鉄道・電力・上下水道・河川・環境・防災・生態学・衛生管理・農業経営と多岐に渡りました。

夜会参加者からは、毎回「日頃、同業他社との交流は少なく、今回の交流会では各社の特徴や互いの専門分野などについて情報交換ができ、非常に有意義だった」との感想が聞かれ、この交流会の趣旨のひとつである「若手技術者間のネットワークづくり」につながる活動になっています。



■若手意識調査

夜会では毎回アンケート形式による若手 CE の意識調査も実施しています。今回の回答数は 29 人(男性：23 人、女性 6 人、回答者の平均年齢 31 歳 各問い複

数回答)。

なぜ、CE の職業を選んだかの問いに、「CE の仕事に興味があった 20 人」「海外勤務が出来る 6 人」。CE 業界の改善点については、半数以上が「一般的な認知度が低い 18 人」と「残業が多い 17 人」と回答。過去 2 回と同様の傾向でした。

若手 CE の育成に関する問いでは、若手 CE 育成に寄与している要因として「上司・先輩の指導 7 人」と「自分で勉強・努力 6 人」がほぼ同数の回答でした。過去 2 回は「上司・先輩の指導」が「自分で努力」よりも多かったことを考えると、興味深い結果となりました。また、「社内教育システム」を挙げたのは 0 人で、社内での取り組みも減ってきているのかもしれませんが、もしくは、若手 CE にまだシステムが浸透していない可能性があります。

尚、今回のアンケートは、YP 大賞発表会に参加したメンバーのほとんどがそのまま夜会に参加してアンケートに回答していることから、上記結果は、自分を向上させる意識の高い若手技術者が集まったことが要因の可能性もあります。実は平均的な回答ではないのかもしれませんが、次回もこのような自主性が高い傾向のアンケート結果が見られると、CE 産業の未来も明るいかもしれません。

最後に、今回 YP 大賞発表会を開催でき、そして大成功といえる盛況ぶりに終えることができたことに非常の喜びを感じています。また、夜会では、森村設計の皆さんから、YP フットサルリーグの呼びかけもあり、交流が広がりをみせています。あの勢いからしてまず実現することでしょう。楽しみです。

YP 分科会では、2012 年 10 月 15 日から始まる日豪若手技術者交換研修 2012(YPEP: Young Professional Exchange Program)でのイベントを企画しています。11 月 2 日には、豪州の若手技術者 11 名との討論会『ヤングサミット』が日水コン会議室で開催されます。興味の沸いた方は是非ご参加下さい。(詳細は AJCE ホームページをご覧下さい。)

今後も YP の皆さんのために、そして私たち委員自身にとって、有意義な活動を実施していきたいと考えていますので、積極的なご参加をお待ちしております。